小山工業高等専門学校	複合工学専攻(建築学コース)	開講年度	平成29年度 (2017年度)
学科到達目標			

【学習・教育到達度目標】小山高専の教育方針

- ①豊かな人間性の涵養
- ②豊かな感性と創造力の育成
- ③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上
- ④高度な専門知識と問題解決能力の育成
- ⑤情報技術力の向上
- ⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成

【JABEE】技術者教育プログラム(JABEEプログラム)学習・教育到達目標

- (A) 科学や工学に関する基本的知識を習得し、専門工学分野の問題に応用して適切な解を求められる。
- (B) 問題点を把握し、俯瞰的な考察に基づく科学的方法を駆使しながら協働で作業し、主体的に結論を導く姿勢を保てる。
- (C) 数学および自然科学に関する基礎知識を習得し、それらを総合的に応用できる。
- (D) 科学・技術が自然や社会に与える影響を、豊かな人間性を備えた技術者としての視点に基づいて理解できる。
- (E)グローバル社会で通用する研究調査や実験の計画を適切に立てて結果を論理的にまとめ、外国語も用いて正確に他者に理解してもらうことができる

														ıl	
				1 1			学年別週当授業時数								
科E	国区	 授業科目	科目番	単位種 別	単位数	専1年							担当教	履修上	
分		DATIO	号	別	T 122X	前		後		前		後		員	の区分
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
専門	選択	近代建築思潮史	0001	学修単 位	2			2						安高 尚毅	
専門	選択	文化財保存論	0002	学修単 位	2	2								安高 尚毅	
専門	選択	地域施設計画論	0003	学修単 位	2			2						安高 尚毅	
専門	選択	居住地計画論	0004	学修単 位	2	2								尾立 弘史	
専門	選択	環境デザイン論	0005	学修単 位	2	2								佐藤 篤史	
専門	選択	建築耐震設計論	0006	学修単 位	2			2						本多 良 政	
専門	選択	建築構造解析学	0007	学修単 位	2			2						堀 昭夫	
専門	選択	都市防災論	8000	学修単 位	2	2								横内 基	
専門	選択	地域設計 II	0009	学修単 位	2			2						安高 尚	
専門	選択	まちづくり論	0010	学修単 位	2			2						安高 尚	
専門	選択	地域設計 I	0011	学修単 位	2			2						安高 尚毅	
専門	選択	設備システム論	0001	学修単 位	2							2		佐藤 篤史	
専門	選択	鋼・合成構造論	0002	学修単 位	2					2				中島 秀雄	
専門	選択	鉄筋コンクリート構造論	0003	学修単 位	2					2				本多 良 政	
専門	選択	建築高機能材料工学	0004	学修単 位	2					2				川上 勝弥	
専門	選択	建築CAD・CG	0005	学修単 位	2					2				大島 隆	
専門	選択	バリアフリー・デザイン 論	0006	学修単 位	2							2		佐藤 篤史	

ЛVI	lı工業高	 等専門学校		要 平成29年度 (2	2017年度)		近代建築思潮		
		<u> </u>	כון דויינותן	£ 1/3//23 1/3C (2	2017 (7)				
科目番号		0001			科目区分	専門 / 選	:		
<u>170日7</u> 授業形態		講義			単位の種別と単	-			
開設学科	-				対象学年	中国 中			
開設期	<u>r</u>	後期	ナサ以(産来ナコー		週時間数	2			
	¥h++		事等に関すて16辛	1 /言葉言火力上) 『カカロロ /长					
教科書/教 担当教員		安高尚	<u>建築に関する16章。</u> ☆	」(碑谈社)『空间〈惊	幾能から様相へ〉』	(岩波書店)			
		女同 四	孝 又						
2 、見学	世紀建築した建物	の技術的、思 の概要を理解	想的背景を理解・記し、美しくレイア!	説明できる クトできる					
<u>ルーブ</u>	リック								
			理想的な到達		標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの		
評価項目	11		20世紀建築 景を理解・説	の技術的、思想的背 明できる	20世紀建築の景を理解が不十二	技術的、思想的背 分	景を理解・説明		
評価項目2 見学した建物の概要を理解 しくレイアウトできる					見学した建物の分、レイアウト	概要の理解が不十 が不十分	見学した建物 <i>0</i> おらず、美しく いない	D概要を理解できて くレイアウトできて	
評価項目	13								
学科の	到達日梅	頭目との							
	有到達度		· 教育到達度目標 (5)					
教育方	 法等								
奶要		近代建筑	築の考え方を理解す	 ける。					
.,,,,	め方・方	1		いながら近代建築の理	 解を深めて行く				
注意点		2	10 C L L J L L L J L L L J L L L J L L L J L L L J L L L J L L L J L L L J L	**************************************	73+ (2)(0) (1) (
授業計	面	I							
又未可	<u> </u>	週	極業市 索			国プレの到寺口垣	<u> </u>		
			授業内容			週ごとの到達目標			
		1週	オリエンテーショ			各自の発表の日程			
		2週	『現代建築に関す				- 316章』の理解		
		3週	『現代建築に関す				る16章』の理解		
	3rdQ	4週	『現代建築に関				る16章』の理解		
		5週	『現代建築に関			7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7 - 7	る16章』の理解		
		6週	『現代建築に関				る16章』の理解		
		7週	『現代建築に関				る16章』の理解		
後期		8週	『空間〈機能かり				様相へ〉』の理解		
		9週	『空間〈機能かり			『空間〈機能から	様相へ〉』の理解	解	
		10週	『空間〈機能かり				様相へ 』の理解		
		11週	『空間〈機能かり				様相へ〉』の理解		
	4thQ	12週	『空間〈機能かり				様相へ〉』の理解	= :	
	ruiq	13週	『空間〈機能かり	ら様相へ〉』			6様相へ〉』の理解		
		14週	近代建築を実際の	こ見学し、調査発表		見学した建物の概	腰を理解し、美し	しくレイアウトする	
		15週	近代建築を実際の	こ見学し、調査発表		見学した建物の概	腰を理解し、美し	しくレイアウトする	
		16週	近代建築を実際の	こ見学し、調査発表		見学した建物の概	悪を理解し、美し	しくレイアウトする	
モデル	コアカリ	ノキュラムの	の学習内容と到	達目標					
		分野	学習内容	学習内容の到達目	 標		到達	レベル 授業週	
評価割	 合	1,22-3	1. 4.34				1	1	
		 試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
松△≒ボ/≖		<u>武陽央</u> O							
総合評価			30		0	0	70	100	
基礎的能		0	0	0	0	0	0	0	
専門的能	辺	0	30	0	0	0	70	100	
分野横断	- 45 45 1	0	0	0	0	0	0	0	

小山	山工業高	 等専門学校	文 開講年度	要 平成29年度 (2	2017年度)	授業科目			
科目基础	壁情報								
科目番号		0002			科目区分	専門/選抜	R		
授業形態		講義			単位の種別と単位				
開設学科			学専攻(建築学コ-	-ス)	対象学年 専1				
開設期		前期			週時間数 2				
教科書/教	 效材				•	·			
担当教員		安高尚							
到達目	標	•							
1 文化	財保護,建	 築再生の概要 、都市景観計	要が説明できる 画の諸制度と理念(こついて説明できる					
ルーブリ	リック								
			理想的な到達	レベルの目安	標準的な到達レイ	·//の目安	未到達レベルの	 D目安	
評価項目	1		文化財保護,延 できる	建築再生の概要が説明	文化財保護,建築 が不十分	再生の概要が理解	文化財保護,建	築再生の概要が説明	
評価項目	2		歴史的市街地 制度と理念に	、都市景観計画の諸 ついて説明できる	歴史的市街地、者制度と理念につい 分	都市景観計画の諸 いての理解が不十	歴史的市街地、制度と理念にて	都市景観計画の諸 いて説明できない	
評価項目	3								
		票項目との	 盟係		1				
	<u>到连口信</u> 育到達度		スカボ						
子首・3 JABEE (E	.月划建浸 B)	日信の							
教育方法	 法等								
	<u></u>	文化財	 保存の意義を習得す	 する					
	<u></u> め方・方	<u> </u>		<u>、。</u> こより授業を進める					
注意点									
									
	<u> </u>	週	授業内容						
		1週	オリエンテーシ			授業の流れの把握			
		2週	歴史的環境の保			歴史的環境の保存			
		3週	歴史的環境の保			歴史的環境の保存			
		4週	歴史的環境を巡			歴史的環境を巡る			
	1stQ	5週	民家調査の基礎			民家調査の基礎知			
		6週	民家の見かた調			民家の見かた調べ			
		7週		<u> </u>		文化財建造物評価		 层	
		8週		画書の書き方(1) 価書の書き方(2)		文化財建造物評価			
前期		9週		画書の書き方(2) 告書の書き方(1)		文化的建造物計価 伝建地区調査報告			
		10週		ョ音の音さ <u>力(1)</u> 告書の書き方(2)		<u>伝建地区調査報告</u> 伝建地区調査報告			
		11週	西日本の伝建地			西日本の伝建地区		'	
		12週	東日本の伝建地			東日本の伝建地区			
	2ndQ	13週	世界遺産の町並	_ • ,		世界遺産の町並み			
		14週	レポート発表と	*		立れ関連の可収の文化財建造物の評			
		15週	レポート発表と			文化的建造物の許 伝建地区の評価を			
		16週	レハート光衣と	æpr*		は注心でいず画で	3 9 C C M. C C C	<u> </u>	
			一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一						
	<i></i>		の学習内容と到		-m		和大士	1 02 11 142 ARVE	
分類	^	分野	学習内容	学習内容の到達目	宗		到達	レベル 授業週	
評価割る					T	T -			
		試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価	割合	0	30	0	0	0	70	100	
基礎的能	カ	0	0	0	0	0	0	0	
	+ 1	0	30	0	0	0	70	100	
専門的能	//			U	0		, 0	100	

小山	山工業高	等専門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	地域施設計画	画論		
科目基礎	ლ情報									
科目番号		0003			科目区分	専門 / 🤃				
受業形態		講義			単位の種別と単位					
開設学科		複合工	学専攻(建築学コース	ス)	対象学年 専1					
開設期		後期			週時間数	2				
教科書/教	 效材				•	•				
担当教員		安高尚	 毅							
到達目標	 標	•								
1、地域	のコミュニ	ニティ施設配記 施設の代表でる	置方式が説明できる ある集会計画方法に	ついて説明できる						
ルーブ	リック									
	-		理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ/	ベルの目安	未到達レベル			
評価項目	1		地域のコミュニ が説明できる	ティ施設配置方式	地域のコミュニラの理解が不十分	ティ施設配置方	式 地域のコミュ が説明できな	ニティ施設配置方式 い		
評価項目	2		地域のコミュニ が説明できる	ティ施設配置方式	地域のコミュニラ の理解が不十分	ティ施設配置方	式 地域のコミュ が説明できな	ニティ施設配置方式 い		
評価項目	3									
学科の	到達目標	項目との関	関係							
学習・教 JABEE (/	育到達度目 A)	目標 ②								
教育方法	 法等									
캜。	·	各テー	マに対して発表を行い		提出させる。					
受業の進	め方・方法	き 各テージ	マに対して発表を行い	 ハ、随時レポートを						
主意点										
受業計	面	'								
~/\\\		週	授業内容]標			
		1週	地域施設計画とは			地域施設体系の				
		2週	地域施設の配置方	 式 規模算定			<u> </u>			
		3週	集会関連施設の種類			集会関連施設 <i>0</i>				
		4週		<u>~~</u> 集会所計画①(環境		環境調査ができ				
	3rdQ	5週	農村集落レベルの				<u> </u>			
		6週	農村集落レベルの				の集会所計画がて			
		7週	農村集落レベルの				の集会所計画がて			
		8週	農村集落レベルの				の集会所計画がて			
		9週	市町村レベルの集会に、農産加工施設の	会所計画①			集会所計画ができ			
後期		10週	市町村レベルの集合	 会所計画①		市町村レベルの)集会所計画ができ	- る		
		11週	市町村レベルの集会 (トレーニング)	会所計画① ルームを中心とする	5)	市町村レベルの	集会所計画ができ	る		
	4thQ	12週	市町村レベルの集会 (漁協の併設、)	島の実例)		市町村レベルの	集会所計画ができ	· る		
		13週	市町村レベルの集合(農協の併設)			市町村レベルの	集会所計画ができ	5 る		
		14週	<u> </u>	ルーム(柔道場) σ)集会所計画ができ			
		15週 16週	」ミユニテイ施設	(集会所計画) まと	[8)	」ミユニティ 放	設の計画ができる)		
モデル	<u>コア</u> カリ	キュラムの	の学習内容と到達	桂目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	 標		到過	達レベル 授業週		
評価割1	 合	'	<u> </u>							
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		 式験	発表	相互評価	態度	ポートフォリ	オーその他	合計		
総合評価			60	0	0	0	40	100		
^{心口 正}			0	0	0	0	0	0		
	(•			+-	+~		 _		
専門的能	カーし)	60	0	0	0	40	100		

小山	·····································	専門]学校		開講年度	į	 平成29年度 (2	 2017年度)	授	選科目 /		-画論		
科目基礎								,						
科目番号		00	004					科目区分		専門 / 選択	1			
授業形態		講	義					単位の種別と単位	立数	学修単位: 2	2			
開設学科		複	合工学専	攻	(建築学コ-	-ス)	対象学年		専1				
開設期		- ::::	ī期					週時間数		2				
教科書/教	材	-	<u>:し</u>											
担当教員	_	尾	立 弘史											
到達目標	•													
家族や生活 農村の持て 農村社会で	⊃空間的ス └住民参加、	の変遣 トック グリ	を理解し の活用・ リーンツー	ノ、 尼 · 整備 - リス	5住スタイル 東方法が説り ズムへの対応	ルを 明で たな	と。 できる。 提案できる。 きる。 どを理解できる。 ジが表現できる。							
ルーブリ	ノック			I				I=34.4=134.			I			
					想的な到達			標準的な到達レ			未到達レ			
評価項目1	l			構を農・、な表	或、家族や 理解持の 対域が 大学を で がい で で で で で で で で の で の た の た の た の た の た	生住間農一自	ティと生活圏域 5スタイルの変遷 くタイルの提案、 13ストックの活別 1社会と住民が リズムへの対応、 かの意見が明確に	居住地のコミュ 構成、家族や生 を理解したつ空間 ・整備方法、豊 ・グリーンツー などに対して自 きる。	舌スター スタイル りストー リズム	イルの変遷 ルの提案、 ックの活用 と住民参加 への対応、	構成、服保を農・ 、なき、 なき、 なき ないましょう かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいま	族や生活た民住人に たまま たまま たまま できん できる できる できる できる しょう かいしょう しょう しょう かいしょう しょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう はいしょう しょう はいしょう はいしょく はい	スタイト会ム意	と生活圏域ではいる。と生活圏の変象をはいの提系にはいからない。というないのでは、というないでは、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが
評価項目2	2				て各自イメ		fとスタイルにつ が明確に表現で	人が住むべき場 いて各自イメー:	所とス ^を ジが表 ^っ	タイルにつ 現できる。	人が住むいて各自	べき場所 イメージ	とス が表	タイルにつ 現できない
 学科の3]達目標項	見目	 との関係					1			1*			
	9到達度目標													
教育方法	去等													
概要		居講	住地の観 義では、	記点力 授業	\らのコミニ (中のディス	ュニ	ティー、生活圏域, ッションも実施す	、都市、農村、自 る。	然環境	、グリンツー	-リズム等	について	学ぶ	9
授業の進め	め方・方法	授関	業方法は 連する問	は、詩問題に	義を基本 c	として	て行う。 トの提出を求める。)						
注意点		参	考資料は	独自	のものを値	吏用	するので授業に出り 随時取り上げる。	常しないと理解が	できな	い場合が多し	1。授業内	容は予定	であ	って、生活
	 fi	IIC	-13 13 12 2	7//-	:' <u>\</u>	~161	短的状 グエグ る。							
IX X III	<u> </u>	週	技	受業内					调ごと	 _の到達目標				
		1週			<u>"ロ</u> 1ニティの!	H /				<u>- の対廷ロ係</u> Lニティの単(立としてE	本のコミ	ミユニ	 :ティ単位を
						+ 111	•		理解す					
		2週			图域 1)生活圏域に1				
		3週			图域 2)生活圏域に				
	1 c+O	4週			D規模 1					D規模としてE				
	1stQ	5週	者	1100	D規模 2)規模として図				
		6週	.	農村₫	D居住空間の	の特	性		農村の する	の居住空間の特別	特性として	都市と思	村の	空間を埋解
		7週	7	ストッ	<u>,</u> , クの活用	• 整	 備方法				 整備方法を		5	
		8週		自然現	環境・地形の	—— の活	かし方 1		自然環	 環境・地形のデ 関解する				例(小景観
前期		9週	É	自然環	環境・地形の	の活	かし方2			環境・地形の注 関解する	舌かし方と	して日本	の事	例(大景観
		10词	周	 農村社	土会と住民	参加	1		農村社	t会と住民参加	 加事例を理	 解する		
		11近	周	き村れ かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい	土会と住民	参加	2			上会と住民参加				
	2ndQ	12近	固 / ク	ブリー	-ンツーリ	ズム	への対応 1		グリー する	-ンツーリズ	ムへの対応	SとしてE	本の	事例を理解
		13词	固った	ブリー	-ンツーリ	ズム	への対応 2		グリ- を理解		ムへの対応	ことしてヨ	3-C	リッパの事例
		14 边	固 フ	アメニ	ニティとア・	イデ	ンティティ			ティとアイ	デンティテ	- イの評価	手法	を理解する
		15词	周	- 号近 <i>0</i>	D動き				ニュー	-スから最近の	の動きを理	 関解する		
		16ปั	問											
モデルニ	コアカリキ	F_	ラ <u>ム</u> の賞	学習	内容と到	達	目標							
分類			分野		学習内容		学習内容の到達目	票				到達レ/	ベル	授業週
専門的能力	カー 分野別の 門工学	D専	建築系分	→里 家		Ī	************************************	こついて説明でき		覚昍で⇒ス		5		
471 JULY	7 門工学		在木 不力	, エ)			炎がにありるコミ. 参加協働によるコミ					5		
評価割合	<u> </u>				<u> </u>	13	ン (第150 のり) (第150mmに の の し・		_ v · C	mm/1 CC 00		15		I .
<u>ы і іМОІ Г</u>	試	験		発	 表		相互評価	態度	ポー	トフォリオ	その他		合計	-
総合評価語		<i>-</i>		20			0	0	0		80		100	
— н г і ішіс	10			1-0			1-	1-			1		,	

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	20	0	0	0	80	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

			I		1					
小山工業高等専	門学校	開講年度	平成29年度 (2	017年度) :	授業科目 環境デザイン論					
科目基礎情報	Alla 基礎情報									
科目番号	0005			科目区分	専門/選択					
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2					
開設学科	複合工学専攻	(建築学コース	()	対象学年	専1					
開設期	前期			週時間数	2					
教科書/教材	栃原裕編「生	活環境の快適性	」アイ・ケイ・コ-	ーポレーション						
担当教員	佐藤 篤史									
到達目標										
1. 環境工学および建築設備の知識をベースとして、人間にとっての環境のシステムを説明できる。										

2. 環境デザインを理解し、建築設計に応用できること。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1			環境工学および建築設備の知識を ベースとして、人間にとっての環 境のシステムを説明できない
評価項目2	環境デザインを理解し、建築設計 に適切に応用できること。	環境デザインを理解し、建築設計 に応用できること。	環境デザインを理解し、建築設計 に応用できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 ④ JABEE (D)

教育方法等

37(13) 3 3 3	
概要	本科で学習した環境工学を発展させ、人間-環境系の視点より建築を取り巻く自然環境をとらえる。
授業の進め方・方法	各自が与えられたテーマに対してプレゼンを行い、そのプレゼンに基づき議論・討論を行う。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	1. 生活環境と健康問題 建築物に関わる健康被害について	建築物による健康被害を理解する。
		2週	2. 熱環境と快適性(その1) 人体の熱収支、恒常性	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		3週	3. 熱環境と快適性(その2)各種の温熱指標	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
	1stQ	4週	4. 空気環境と人間の健康	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
	ISIQ	5週	5. 光環境・色彩心理	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		6週	6. 都市環境と社会生活	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		7週	7. 音環境	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
前期		8週	8. 中間レポート	これまでの内容から自身でテーマを見つけてレポート 化する
		9週	9. 被服と建築環境 被服の文化的役割と断熱・保温性能	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		10週	10. 生活空間の環境(その1) 高層住宅への居住、都市の生活	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		11週	11. 生活空間の環境(その2) 入浴・睡眠環境	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
	2ndQ	12週	12. 福祉と環境(その1) 高齢者の温熱環境・暖冷房	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		13週	13. 福祉と環境(その2) 環境から見たユニバーサルデザイン	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		14週	14. 快適なオフィス環境 グリーンオフィスの計画	授業内容に即したテーマを独自に整理し、プレゼンを 行う能力を身につける。
		15週	15. 期末レポート	これまでの内容から自身でテーマを見つけてレポート 化する
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 分類 学習内容の刊達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	学習内容の到達目標					
評価割合										
	試験		発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
総合評価割合	0		50	0	0	50	0	100		
基礎的能力	0		0	0	0	0	0	0		
専門的能力	0		50	0	0	50	0	100		
分野横断的能力	0	·	0	0	0	0	0	0		

小山工業高等専	専門学校開講年度		平成29年度 (2	017年度)	授業科目	建築耐震設計論		
科目基礎情報								
科目番号	0006			科目区分	専門 / 選	択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位	: 2		
開設学科	複合工学専攻(建築学コース)			対象学年	専1			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	1. 日本建築士会連合会「新しい耐震設計の手引き」、東京建築士会、1981年 2. 国土交通省住宅局建築指導課他「2015年版 建築物の構造関係技術基準解説書」、全国官報販売協同組合 3. 国土交通省住宅局建築指導課他「2001年版 限界耐力計算法の計算例とその解説」、工学図書株式会社、2001.3							
担当教員	本多 良政							
到達目標								

- 1. 地震時の建物の挙動を説明することができる。 2. 過去の地震による被害と被害の要因を説明することができる。 3. 耐震設計体系の概略を説明することができる。 4. 耐震設計法の考え方について説明することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1	地震時の建物の挙動について明確	地震時の建物の挙動について説明	地震時の建物の挙動について明確
	に説明できる	できる	に説明できない
評価項目 2	過去の地震による被害と被害の要	過去の地震による被害と被害の要	過去の地震による被害と被害の要
	因について明確に説明できる	因について説明できる	因について明確に説明できない
評価項目 3	耐震設計体系の概略について明確	耐震設計体系の概略について説明	耐震設計体系の概略について明確
	に説明できる	できる	に説明できない
評価項目4	耐震設計法の考え方について明確 に説明できる	耐震設計法の考え方について説明 できる	耐震設計法の考え方について明確 に説明できない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 ④ JABEE (C)

教育方法等

概要	新耐震設計法の概略を学ぶ
	授業方法はゼミ形式とする。 毎回、トピックに関する内容を要約し、代表者に説明してもらう。
注意点	1. 受講生が資料調査結果の発表および内容を補足する授業方式とする。 2. 耐震設計に関するテーマを決め、テーマに関する知見をまとめる課題を出題する。

授業計画

汉未可世	<u> </u>			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	建築物の耐震設計	耐震設計論の概略を理解する
		2週	震害等の実例から得た耐震についての教訓-1	地域による揺れやすさについて理解する
		3週	震害等の実例から得た耐震についての教訓-2	規模や形状による揺れやすさについて理解する
	2540	4週	耐震法規改正の背景	法規改正の経緯を理解する
	3rdQ	5週	建物の耐震設計	耐震設計の考え方を理解する
		6週	建物に作用する地震力	建物に作用する地震力を理解する
		7週	耐震設計法の考え方	耐震設計法の流れを理解する
後期		8週	設計の進め方	構造計算の手順を理解する
1友州		9週	一次設計の進め方 – 1	1次設計の進め方を理解する
		10週	一次設計の進め方 – 2	地震力の算定方法を理解する
		11週	二次設計が必要な建物	2次設計の進め方を理解する
	4+h0	12週	保有耐力の確認が必要な建物 – 1	構造特性係数を理解する
	4thQ	13週	保有耐力の確認が必要な建物 – 2	形状係数を理解する
		14週	限界耐力計算法の考え方	限界耐力計算法の概略を理解する
		15週	耐震設計に関する課題レポートの発表	耐震設計法についてまとめた発表内容を理解する
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容 :	学習内容の到達目標 到達レベル 授業週					授業週
評価割合	評価割合								
	試験		発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	t
総合評価割合	0		0	0	0	80	20	100)
基礎的能力	0		0	0	0	0	0	0	
専門的能力	0		0	0	0	80	20	100)
分野横断的能力	0		0	0	0	0	0	0	

小山	」工業高等	等專門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	建築構造解析学	
科目基础			1			1	,, =	
1 1 日 <u>王 1</u> 科目番号	ACTION N	0007			科目区分	専門 / 選		
受業形態		講義			単位の種別と単位			
開設学科			専攻(建築学コース)		対象学年	専1	. 2	
開設期		後期	守攻 (廷来ナコー人)		週時間数	2		
加政加 教科書/教	h++		, 最新耐震構造解析,	第2版 赤北山町		2		
2014音/多 32当教員	X17/J	堀 昭夫	,取机删法件足胜机,	550以,林山山川	X, 2014			
	応答解析の 動, 地盤の 工学として	基本的な方法 揺れ, 建物の の耐震工学の	を説明できる。 学動について考察で 発展を理解し,適用値	きる。 節囲を知る。				
ルーブ!	<u> </u>							
			理想的な到達レベ		標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目:	1		地震応答解析の基 確に説明できる。	本的な方法を明	明できる。	基本的な方法を説	明できない。	
評価項目2	2		地震動, 地盤の揺 について的確に考	察できる。	地震動, 地盤の持 について考察で	揺れ,建物の挙動 きる。	について考察できない。	
評価項目:	3		経験工学としての を理解し,適用範	耐震工学の発展 囲を説明できる	経験工学としての を理解し,適用領	の耐震工学の発展 節囲を知る。	経験工学としての耐震工学の発展 を理解できず,適用範囲を知らない。	
――――	刘李口福.	百日 レの門	°		1			
		項目との関	11計					
学習・教 IABEE (<i>A</i>	育到達度目 \)	標 ④						
教育方法	去等							
概要		耐震工学	の名著に基づいて幅の	なく学ぶ。				
<u>ш</u>			いて一生使える教科					
授業の進	め方・方法	2. 波動化	内容は講義を基本とし 云播は,模型による体	4機会を設ける。				
注意点		1. 地震原 2. 構造系 将来の	芯答に関する幅広い内 系の学生は,本科目に 実務で耳にした時に,	容を扱うので, より耐震設計法の 「ああ、あの話れ	€現象の理解に非常 O背景を学んで欲し いと思えるように	ぎに役立つ。 い。構造系以外で なって欲しい。	の学生は,考え方の流れを理解して	
授業計画	東	17	<u> </u>					
	-	週	授業内容				<u> </u>	
		1週	1自由度系の自由振動	h		具体的な振動現象の理解		
		2週	1目田度米の目田振動 1自由度系の応答, 応答スペクトル			単純な系での外力応答や地震応答の理解		
		3週	1自由度系の心含、心1自由度系のエネルキ			エネルギ、複素数、の適用理解		
			多自由度系の自由振	,		マトリクス、固有値、固有ベクトル、の適用理解		
	3rdQ	4週		到				
		5週	多自由度系の応答			刺激係数,地動による応答,の理解		
		6週	応答の数値計算法			固有値計算法,数値積分法,加速度法,の理解		
		7週	弾塑性応答の基本			復元力特性,履歴曲線形状,定常応答,の理解		
		8週	弾塑性地震応答			弾塑性応答の性質		
		9週	フーリエ解析の利用				†算, FFT, の理解	
		10週	地震動·実地震動			観測された地震重	•	
		11週	模擬地震動, 地盤振			連続体,波動伝播	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	4thQ	12週	地盤上の剛基礎,質				かのモデル化(質点系),の理解	
	2	13週 14週	骨組の応答, 地盤と				デル, 建物の応答, の理解	
			過去の地震被害と耐	雲計算			設計用外力, の理解	
15週 [耐震規定			塑性変形と耐震調	設計法, 限界耐力法, の理解	
16週 定期試験 これま						これまでの範囲を	E理解する	
	_							
<u> </u>	コアカリ	<u>キュラ</u> ムの	学習内容と到達	目標				

分類	分類		学習内容			授業週
				断面二次モーメント、断面相乗モーメント、断面係数や断面二次 半径などの断面諸量を計算できる。	5	
				鋼構造物の復元力特性と設計法の関係について説明できる。	5	
				構造計算の設計ルートについて説明できる。	5	
				建物の外力と変形能力に基づく構造設計法について説明できる。	5	
		建築系分野	構造	マグニチュードの概念と震度階について説明できる。	5	
専門的能力	分野別の専 門工学			地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明できる。	5	
	门工子			地震による構造物の被害と対策について説明できる。	5	
				振動解析モデルについて説明できる。	5	
				1 自由度系の自由振動の計算ができる。	5	
				部材の弾塑性の性質について理解している。	5	
			施工・法規	地盤調査について理解している。	5	
				ボーリング調査について説明できる。	5	
=== /====1 ^						

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

小山工業高等専	山工業高等専門学校		平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	都市防災論		
科目基礎情報								
科目番号	0008			科目区分	専門/選	択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	数 学修単位	: 2		
開設学科	複合工学専攻(建築学コース)			対象学年	専1			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	日本防災士機構:防災士教本							
担当教員	横内 基							
到達日標								

到连日倧

- 1. 都市防災、建築防災対策を実施するうえで、考慮しなければならない事項を説明できる。2. 建築物の耐震診断・耐震補強、都市の地震被害想定、都市防災計画、防災教育の手法について説明できる。3. 地域の防災リーダーとして必要な知識を説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
都市防災、建築防災対策を実施するうえで、考慮しなければならない事項を説明できる。	都市防災、建築防災対策を実施するうえで、考慮しなければならない事項を十分に理解し、明確に説明できる。	都市防災、建築防災対策を実施するうえで、考慮しなければならない事項を概ね説明できる。	都市防災、建築防災対策を実施するうえで、考慮しなければならない事項を説明できない。
建築物の耐震診断・耐震補強、都 市の地震被害想定、都市防災計画 、防災教育の手法について説明で きる。	建築物の耐震診断・耐震補強、都 市の地震被害想定、都市防災計画 、防災教育の手法について十分に 理解し、明確に説明できる。	建築物の耐震診断・耐震補強、都 市の地震被害想定、都市防災計画 、防災教育の手法について概ね説 明できる。	建築物の耐震診断・耐震補強、都 市の地震被害想定、都市防災計画 、防災教育の手法について説明で きない。
地域の防災リーダーとして必要な 知識を説明できる。	地域の防災リーダーとして必要な 知識を十分に理解し、明確に説明 できる。	地域の防災リーダーとして必要な 知識を概ね説明できる。	地域の防災リーダーとして必要な 知識を説明できない。

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 ④ JABEE (A)

教育方法等

概要	本科目では、都市および地域の防災を考えていく際に必要な知識や評価手法を修得する。
授業の進め方・方法	授業は、課せられた課題に対するプレゼンテーションを学生が行い、それを足掛かりにみんなで考える方式で行う。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス	東日本大震災、阪神淡路大震災で起こったことを理解 する。
		2週	近年の自然災害	近年の自然災害について理解する。
		3週	自然災害のしくみと被害、対策	自然災害のしくみと被害、対策について説明できる。
		4週	自然災害のしくみと被害、対策	自然災害のしくみと被害、対策について説明できる。
	1stQ	5週	耐震診断と補強	耐震診断と補強について説明できる。
		6週	災害とライフライン、交通インフラ、災害医療	災害とライフライン、交通インフラ、災害医療について説明できる。
		7週	行政の災害対応、避難と避難所運営	行政の災害対応、避難と避難所運営について説明でき る。
前期		8週	災害復旧と支援制度 災害とボランティア活動	災害復旧と支援制度、災害とボランティア活動につい て説明できる。
		9週	緊急救助技術	緊急救助技術について説明できる。
		10週	防災拠点の施設計画と救急救命	防災拠点の施設計画と救急救命について説明できる。
		11週	災害情報と災害報道	災害情報と災害報道について説明できる。
	2ndQ	12週	公的機関による予警報 被害想定・ハザード、マップと避難行動	公的機関による予警報 被害想定・ハザード、マップと避難行動について説明 できる。
		13週	都市防災の特徴/災害と危機管理	都市防災の特徴/災害と危機管理について説明できる。
		14週	企業防災と事業継続計画/災害と損害保険	企業防災と事業継続計画/災害と損害保険について説明 できる。
		15週	地域の再建と復興	地域の再建と復興について説明できる。
		16週	定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

	グルコグルフトエクログ)日 1日 CEDに日 M									
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週				
				地球の構造と地震発生機構について説明できる	5					
				マグニチュードの概念と震度階について説明できる。	5					
声明的华力	分野別の専	Z妻奈 ズ 八服	+#、生	地球の構造について説明できる。	5					
専門的能力	門工学	建築系分野	構造	地震活動度について説明できる。	5					
				地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明できる。	5					
				地震による構造物の被害と対策について説明できる。	5					

評価割合

	試験	提出物	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100

基礎的能力	35	10	5	0	0	0	50
専門的能力	35	10	5	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

小厂	山工業高	等専門学校	党 開講年月	度 平成29年度(2	2017年度)	授業科目	地域設計Ⅱ	
科目基	礎情報							
科目番号	÷	0009			科目区分	専門/選持	尺	
受業形態	{	演習			単位の種別と単位	立数 学修単位:	2	
開設学科	ļ	複合工	学専攻(建築学コ・	ース)	対象学年	専1		
開設期		後期			週時間数	2		
教科書/孝	数材 ニュー							
旦当教員		安高 尚	i毅					
到達目	標							
1 、現代 2 、必要	における 機能とデ	コミュニティ ザインの整合	の役割と参加協働 性を含め、地区レ	の意味を説明できる ベルから設計できる				
ルーブ	リック							
			理想的な到達	レベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの	 の目安
評価項目	1		現代における と参加協働の	コミュニティの役割 意味を説明できる	現代におけるコミと参加協働の意味	ミュニティの役割 未の理解が不十分	現代におけること参加協働の	コミュニティの役割 意味を説明できない
評価項目	12		必要機能とデめ、地区レベ	ザインの整合性を含 ルから設計できる	必要機能とデザー め、地区レベルガ 不十分	インの整合性を含 からの設計内容が	必要機能とデザ	ザインの整合性を含 いから設計できない
評価項目	 3				1			
		票項目との	 関係		-		1	
	育到達度		又 加					
XABELE (I								
以日<i>刀。</i> 既要	Д ()	= = = =	 くりの拠点施設のi	·····································				
	め方・方		くりの拠点心設の スのチェックによ [、]					
主意点	יני בינינטי		スのフェックによ	J C 9 9 00 C 01 \				
ェミュ 授業計								
又未引	<u> </u>	\m	松光中交			田プレの別寺口標		
		週	授業内容	ナニオ地区 しの知道		週ごとの到達目標		
		1週 2週		市伝建地区」の解説 市伝建地区」のエスキ	7.0	全体コンセプトのエスキス図・エス		
		3週		市伝建地区」のエスキ 市伝建地区」のエスキ	_	<u>エスキス図・エス</u> エスキス図・エス		
		4週		『中伝達地区』のエスキス		<u>エスキス図・エス</u> エスキス図・エス		
	3rdQ	5週		公建地区」のエスキス(公建地区)のエスキス(エスキス図・エス		
			_	A建地区」のエスキス G建地区」の製図①	4)			
		6週				平面・断面・立面		
		7週		会建地区」の製図②会建地区」の講評会		平面・断面・立面	I凶VJTFIX	
		8週 9週		玄建地区」の講評会 建地区」エスキス①		最終図面の作図 全体コンセプトの	· 合门山	
		10週		<u></u> 建地区」エスキス② 建地区」エスキス③		エスキス図・エス		
		11週				エスキス図・エス		
	4thQ	12週		建地区」エスキス③ 東地区に制図の		エスキス図・エス		
		13週	課題2「真壁伝統課題2「真壁伝統			平面・断面・立面 平面・断面・立面		
							I凶V/TFIX	
		15週	課題2「真壁伝統	王地区」征山		最終図面の作図		
F " 11 ·	<u> </u>							
	<u> </u>		の学習内容と到		1 ==			1 -0.11 1=000-
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目				レベル 授業週
平価割				Т.	T	T .	1	T -
		試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ		合計
総合評価	1	0	30	0	0	0	70	100
基礎的能	カ	0	0	0	0	0	0	0
F-MC-1100		_	1	I -	١٥	10	170	1400
專門的能	カ	0	30	0	0	0	70	100

7011	 工業高等	専門学	校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授	業科目	 まちづく	 り論	
		(31 3 3		1/13/11/2	11/3/2011/2 (1			жна ј	<u>,, ,, , , , , , , , , , , , , , , , , </u>	<u> </u>	
<u>17 山坐城</u> 科目番号	CII J TK	0010				科目区分		専門 / 選択			
授業形態		講義		単位の種別と単位数 学修単位							
開設学科			 [学専攻	(建築学コー)	ス)	対象学年 専1					
開設期		後期			•	週時間数		2			
教科書/教	材	「集任	主の知恵	美しく住むか	たち」日本建築学会	編 技報堂					
担当教員		安高	尚毅								
到達目標		•									
人が集まっ	って住むたと	めの形作り	うれた各	種のシステム	 について説明できる	ı					
ルーブリ	 Jック										
			理	想的な到達レ	·ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目]安	未到達レ	ベルの目安	
評価項目1			人 た	が集まって住	むための形作られ ムについて説明で	人が集まって住った各種のシステ. 不十分。	むための ムについ	D形作られ いて理解が		って住むため システムにつ	
評価項目2)										
評価項目3	}										
学習・教育	列達目標工 育到達度目標		関係								
JABEE (A 教育方法											
<u> 教育カル</u> 概要	ATT	人が負	直まって/	゚゚゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゚゠ゕゕ゙ゕ゙ゕ゙゚		テムについて説明	できス				
1-7-0-	 か方・方法		<u> </u>	<u>エも/こは/V//////</u>	トンルいこロ信のン人	ノムにフいて肌切	(C)				
<u> 注意</u> 点	-/3 /3/14	37/17/E	1,000								
<u>左巡巡</u> 授業計画	 5i										
	1	週	授業	 内容			调ごと	 の到達目標			
		1週		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 jイダンス				都市計画の	課題について	こ説明できる
		2週	2 🖰	加を詰み解く	、環境に適応するの	<u> </u>	都市の	 形成について	て説明でき		
		3週	_		、環境に適応する	_		<u> 形成についる</u>			
	3rdQ	4週	_	立地を読み解く、環境に適応する③				形成について			
	SiuQ	5週	_		自然を活用する①					. <u> </u>	ている。
		6週			自然を活用する②					手法を理解し	
		7週			自然を活用する③		都市環	境を総合的に	こ計画する	手法を理解し	している。
		8週	自然	とすみあう、	自然を活用する④		都市環	境を総合的に	こ計画する	手法を理解し	している。
		9週	集ま	って住む形(人・人) ①		住民参いる	加・協働のる	まちづくり	の体制につい	ハて理解して
後期		10週	集ま	って住む形(住民参いる	加・協働のる	まちづくり	の体制につい	ハて理解して	
		11週	集ま	って住む形(住民参加・協働のまちづくりの体制について理解 いる			ハて理解して		
	4thQ	12週	集ま	まって住む形(人・神)①			市街地を開発する地域コミュニティー等による仕組み について理解している。				
		13週	集ま	って住む形(人・神)②		市街地につい	を開発する ^は て理解してい	地域コミュ いる。	ニティー等に	こよる仕組み
		14週	集ま	って住む形(人・神) ③			を開発する ^は て理解してい		.ニティー等に	こよる仕組み
		15週	まと	め			現代社説明で		都市計画の	課題の位置で	づけについて
		16週									
モデルー	アカリニ		 の学習	内容と到達	 韓目標		•				
分類		分里		学習内容	学習内容の到達目	 標				到達レベル	授業週
		7,51	-	3 -1.31	現代社会における		位置づい	ナについて説	明できる	5	
					。 近代の都市計画論	について説明でき				2	+
					現代にいたる都市			 3。		5	
					市街地形成と都市					5	1
					街路計画の手法と					5	
	. ◇ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆				日本の土地利用計					5	後14
専門的能力 分野別の門工学		^{グ寺} 建第	桑系分野	計画・歴史	景観形成・風景計る。				説明でき	5	後15
					市街地を開発する類似している。	地域コミュニティ	一等に。	よる仕組みに	ついて理	5	後15
					地区計画制度につ	 いて説明できる				5	
					建築協定・緑化協		• 協働		の体制に		// C
					ついて説明できる。		ייניבו ניננו	-6.55	->1Edir±1 <-	5	後8
					都市の形成につい	て説明できる。				5	後2,後15

			į	都市環境を総合的に	計画する手法を理	解している。		5	後4,後15
			1	都市と農村の計画に	ついて説明できる) o		2	
			t	也域計画調査手法に		5			
			<u>t</u>	也域計画整備の実例	りについて説明でき	る。		5	
			<u> </u>	景観計画と事例につ	いて説明できる。			2	
			1	都市景観計画に関す	る法制度について	説明できる。		2	
			<u> </u>	地域資源(たとえは 資源、特産物など)	ば、指定・登録文化 について説明でき	湖、伝建制度・地 る。	区、観光	2	
				地域資源の保存・再 ョンなど)手法につ	事生(たとえば、リ いて理解している	ノベーション、コ 。	ンバージ	2	
評価割合									
	試験	-	 発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合	<u></u>
総合評価割合	0		40	0	60	0	0	10	0
基礎的能力	0		0	0 0 0					
専門的能力	0		40	0 60 0 0					0
分野横断的能力	0	(0	0	0	0	0	0	

小山工業高等專	門学校	開講年度	平成29年度 (2	017年度)	授業科目	地域設計 I
科目基礎情報						
科目番号	0011			科目区分	専門/選	択
授業形態	演習			単位の種別と単位数	対 学修単位	: 2
開設学科	複合工学専攻	(建築学コース	()	対象学年	専1	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材						
担当教員	安高 尚毅		·	·		
到读日樗						

|到连日倧

- 1.地域・地区の分析方法を説明できる 2.地域・地区の分析を通じ、必要機能とデザインの整合性等を含め、まちづくりの観点から設計ができる。 3.地域特性を加味した居住スタイルと形態を提案できる 4.自身の提案を、図面と模型のプレゼンテーションによって的確に表現できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	地域・地区の分析方法を説明でき	地域・地区の分析方法の説明が不	地域・地区の分析方法を説明でき
	る	十分	ない
評価項目2	地域・地区の分析を通じ、必要機能とデザインの整合性等を含め、	地域・地区の分析を通じ、必要機能とデザインの整合性等を含め、	地域・地区の分析を通じ、必要機能とデザインの整合性等を含め、
	まちづくりの観点から設計ができる。	まちづくりの観点から設計が不十分。	まちづくりの観点から設計ができない
評価項目3	地域特性を加味した居住スタイル	地域特性を加味した居住スタイル	地域特性を加味した居住スタイル
	と形態を提案できる	と形態を提案が不十分	と形態を提案できない
評価項目4	自身の提案を、図面と模型のプレゼンテーションによって的確に表現できる	自身の提案を、図面と模型のプレゼンテーションによって的確な表現が不十分	自身の提案を、図面と模型のプレゼンテーションによって的確に表現できない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 ②

JABEE (B)

教育方法等

1.地域・地区の分析方法を説明できる 2.地域・地区の分析を通じ、必要機能とデザインの整合性等を含め、まちづくりの観点から設計ができる。 3.地域特性を加味した居住スタイルと形態を提案できる 4.自身の提案を、図面と模型のプレゼンテーションによって的確に表現できる 概要

授業の進め方・方法 毎回のエスキスチェックによる

注意点

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
	1週	課題説明 文献・現地調査	歴史的市街地について説明できる。環境対策と景観形成について説明できる。
	2週	文献・現地調査	歴史的市街地について説明できる。環境対策と景観形成について説明できる。
	3週	文献・現地調査の図面化	歴史的市街地について説明できる。環境対策と景観形成について説明できる。
3rdQ	4週	文献・現地調査の発表	歴史的市街地について説明できる。環境対策と景観形成について説明できる。
	5週	敷地コンセプトの決定	計画の立案ができる。
	6週	エスキスチェック (配置図・平面図)	動線について説明できる。ゾーニングについて説明できる。
	7週	エスキスチェック (配置図・平面図)	動線について説明できる。ゾーニングについて説明できる。
	8週	エスキスチェック (平面細部)	与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキ スができる。
	9週	エスキスチェック (平面細部)	与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキ スができる。
	10週	エスキスチェック(平立断)	与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面 図、断面図などが描ける。
	11週	エスキスチェック(平立断)	与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面 図、断面図などが描ける。
4thQ	12週	中間発表	講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼ ンテーションができる。
	13週	エスキスチェック(細部)	敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠 を検討できる
	14週	エスキスチェック(細部)	敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠 を検討できる
	15週	講評会	講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼ ンテーションができる。
	16週		
		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 12週 13週 14週 15週	1週 課題説明 文献・現地調査 3週 文献・現地調査の図面化 4週 文献・現地調査の発表 5週 敷地コンセプトの決定 6週 エスキスチェック(配置図・平面図) 7週 エスキスチェック(配置図・平面図) 8週 エスキスチェック(平面細部) 9週 エスキスチェック(平立断) 11週 エスキスチェック(平立断) 11週 エスキスチェック(平立断) 12週 中間発表 13週 エスキスチェック(細部) 14週 エスキスチェック(細部) 15週 講評会

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分類 分野		学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
市明的北土	分野別の専	建筑交公服	=1	建築計画・設計の手法一般について説明できる。	5	後5
専門的能力	門工学	建築系分野	計画・歴史	計画の立案ができる。	5	後5

			企画の手法に	 ついて理解できる。		5	後5	
			動線について			5	後5,	
			ゾーニングに	ついて説明できる。		5	後5,	 ,後7
			歴史的市街地について説明できる。 5					,後2,後
			環境対策と景	観形成について説明	明できる。	5	後1, 3	,後2,後
			製図用具の特	性を理解し、使用で	できる。	5	後15	 5
			線の描き分け	(3種類程度)ができ	る。	5	後15	5
			文字・寸法の	記入を理解し、実置	浅できる。	5	後15	5
			建築の各種図	面の意味を理解し、	描けること。	5	後15	5
			図面の種類別	の各種図の配置を現	里解している。	5	後15	5
			図面の尺度・	縮尺について理解し	」、図面の作図に反映	央できる。 5	後15	5
			建築図面を模	写し、模写した図	面が理解している。	5	後15	5
			立体的な発想などを用い)カ		、正投象、単面投象	、透視投象 5	後15	5
			ソフトウェア	を用い、各種建築国	図面を作成できる。	5	後15	5
		設計・製図	各種模型材料 面をもとに模 り建築モデル	(例えば、紙、木、 型を製作できる。 を作成できる。	スチレンボードなど または、BIMなどの3)を用い、図 D-CADによ 5	後15	5
			与えられた条	件をもとに、コンt	2プトがまとめられる	3。 5	後7	,
					・ゾーニングのエス=		後7	
			与えられた条 などがかける		図、各階平面図、立面	面図、断面図 5	後9, 10,稻	
			設計した建築	 物の模型またはパ-		3。 5	後15	 5
			講評会等にお	いて、コンセプトな	などをまとめ、プレt	ブンテーショ ₅	後12	2,後15
				域および景観などに	こ配慮し、配置、意図	丘を検討でき 5	後15	5
			講評会等におができる。	いて、設計趣旨なる	どをまとめ、プレゼン	ンテーション 5	後15	5
				素(形と空間の構成	成)について説明でる	きる。 5	後13 14,後	
		 美術・デサ イン		形態(ものの形)(こついて説明できる。	5	後13	
			デザインプレ	 ゼンテーションが ^っ	 できる。	5	後15	
評価割合	1		1, , , , , , ,				12.10	-
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリ	オーその他	合計	
総合評価割合	<u> </u>	70	0	30	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
全吸り形力				i		1_		
専門的能力	0	70	0	30	0	0	100	

Jul		等専門学校	開講年度	平成29年度(2017年度)	拇:	業科目	 設備システ <i>L</i>	
科目基礎		ナサリナツ	()	(十/)以234/支 (2017年皮)	12:	*110		<u> </u>
科目番号	疋旧牧	0001			科目区分		専門 / 選択	3	
授業形態		講義			単位の種別と単	/ 古 米h	等[]/ 選折 学修単位:		
開設学科				-7)	対象学年	1江女X	<u> </u>		
開設期		後期	ナ		週時間数		2		
教科書/教			 人「建築家のための)建築環境デザイン」	-	ļ			
担当教員	(//Z)	佐藤 篤		/建来水光/フィン]	<u>л ДГ</u>				
到達目標		PETAS NO							
		アレ にラ /	佐脇めもみまれたな	型築設備を説明できる 関係で	マレ				
		ハしこうん、「	内域の おおれまり りょう	E来政備で武功し合る	ادد،				
ルーブリ	ノック		T田もりもしないまし		- (本)	~~ II	11	土がいましょうは	
			理想的な到達し		標準的な到達し			未到達レベル	
評価項目1	1		設備をンステム 瞰的な視点かり 説明できる。	ムとしてとらえ、俯 ら建築設備を明確に	設備をシステム 瞰的な視点から き。	建築設備	を説明で	設備をンステ 瞰的な視点か きない。	ムとしてとらえ、俯 ら建築設備を説明で
学科の発	到達目標	項目との	関係						
学習・教育 JABEE (D	育到達度目))	標 ④							
教育方法	去等								
概要		建築設位	備による省エネルキ	一計画、建物用途別	の設備計画				
授業の進む	め方・方法	<u>主とし</u>	て講義によるが、適	宜設備の見学会など	を実施する				
注意点									
授業計画	画								
		週	授業内容			週ごとの	の到達目標		
		1週	1. 設備システム	ム概論・設備学の基礎	* E				
		2週	2. 地球環境問題	風・都市環境問題					
		3週	2. 省エネルギー	-法の意義と意味					
	3rdQ	4週	4. 建築と設備の	D融合化					
	JiuQ	5週	5. 環境・省エネ	マルギー計画					
		6週	6. 電気設備計画						
		7週	7. 設備見学会						
/// H E		8週	8. 中間レポート						
後期		9週	9. 衛生設備計画						
		10週	10. 空調設備計画						
		11週	11. 空調設備計画						
	4+hO	12週	12. 管理・総合図						
	4thQ	13週	13. 医療・福祉 14. 寒冷地、展 建築の設備	他設の設備計画 示・収蔵、美術館なる	ど、特殊な地域、				
		15週	15. 解説、総論						
		16週	13. 74a/C. 4/Cam						
エデリー	コアカロ		」 D学習内容と到:						
<u>モナル_</u> 分類	<u> </u>	ナユ ノム・ 分野	クチョハ谷と判。 学習内容	建口信 学習内容の到達目	煙			Zi125	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		[/J/王] ⁷	ナ百円谷	ナロバ谷の判廷日	" 还			土川芝	Eレ′ ソレ I又未児
評価割合		₽ EΦ	∞ ±	47万部/平	能麻		74114	7.0.W	∆≣↓
‰△===/===		北験	発表 20	相互評価	態度		トフォリオ	その他	合計
総合評価語			30	0	0	70 0		0	0
基礎的能力			30	0	0	70		0	100
等门的能。 分野横断的			0	0	0	0		0	0
ノリまげ供めば	רראווהי ח		Įυ	Įυ	Į U	Įυ		IO	υ

	」工業高等	男門字 秘	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	鋼・合成構	告論	
77 H 🗚 🗓	楚情報	(31)3 [X	1/3	1 1 13/2 5 1 1/2 (2	1017 112)	JAKITE I	217 1173011	مانم	
科目番号	AC11311A	0002			科目区分	専門/選択	7		
<u></u>		講義			単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科			専攻(建築学コー	ス)	対象学年	専2			
//300 		前期	(3/)/ (//2//(3 -	<i>y</i>	週時間数	2			
<u>//100/////</u> 教科書/教	ーーーーー カネオ		 秋 建築合成構造	オーム社	AGE-01638X				
担当教員	V.152	中島秀雄		7 44					
<u>====================================</u>	<u> </u>	1.1.22 /3/00	<u> </u>						
1. 合成构 2. 合成构 3. 合成构	構造のメリッ 構造の耐力式 構造の変形を	忧を理解し、 ヒ計算するこ	ットを他の構造形 実際に部材を設計 とができる。 筋を説明すること	 式と比較して説明す することができる。 ができる。	ることができる。				
ルーブリ	 Jック								
			理想的な到達し		標準的な到達レベル	 の目安	未到達レベ	 ルの目安	
	ー のメリット、 造形式と比較 できる		RC,S造と合成	構造のそれぞれの特 比較を行うことがで	各種構造の特徴を理		各種構造の		できない
合成構造の		理解し、実際 こができる		面設計を行い、最適 ごきる	合成構造の断面設計	けができる	合成構造の	断面設計が	できない
とができる			の断面を提案で	ンて最適な合成構造 ごきる	合成構造の変形が計	 算できる	合成構造の	変形が計算	 !できない
		目との関	係						
	育到達度目標	4							
IABEE (C									
教育方法	太寺				nn + /= =				
既要		毎回、講	義による基本事項 た課題の講評を行	の説明と、課題の説! う。	明を行う。				
				_ <u>。</u> 関する復習をする。					
受業の進む	め方・方法	RC,S造と 各自モデ 各種の構	:適宜比較しながら ル建物を設定し、 造形式に対する断	5合成構造の設計法に 外力(固定、積載、) 面(柱、梁)を計算	こついて説明する。 風、地震)を計算して する。 する最適な構造を提乳	て骨組みの応力で を数する。	を計算する。		
主意点			題に対してレポー する積極的な参加	ト提出を求めます。 を求めます。					
受業計画	画								
		週	授業内容		週	ごとの到達目標			
		1週	ガイダンス		建築物に対する設計用外力を設定できる				
		2週	荷重①固定、積載	法、雪					
		3週	荷重②地震、風			建築物に作用する地震力、風圧力が計算できる			
		3/2型						力が計算で	ごきる
			応力①柱軸力、地	1震力	外:				
	1stQ	4週	応力①柱軸力、地 応力②梁応力	漂力		力に対して骨組	みに生じる応	力が計算で	できる
	1stQ	4週 5週	応力②梁応力		外:	カに対して骨組 力に対して骨組	みに生じる応 みに生じる応	力が計算で	できる
	1stQ	4週 5週 6週	応力②梁応力 RC部材の断面算類	定	外. RC	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定	みに生じる応 みに生じる応 Eができる	力が計算で	できる
	1stQ	4週 5週 6週 7週	応力②梁応力 RC部材の断面算類 鉄骨部材の断面算	定定	外. RC 鉄	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算	みに生じる応 みに生じる応 ができる 定ができる	力が計算で	<u>で</u> きる
	1stQ	4週 5週 6週 7週	応力②梁応力 RC部材の断面算類	定定	外. RC 鉄	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定	みに生じる応 みに生じる応 ができる 定ができる	力が計算で	<u>で</u> きる
前期	1stQ	4週 5週 6週 7週	応力②梁応力 RC部材の断面算類 鉄骨部材の断面算	定定	外. RC 鉄 設 る 合 る	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外カ、断 成梁のたわみを	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨	力が計算で 力が計算で 組みの変形 梁との違い	ごきる ごきる ジが計算でき いを理解でき
前期	1stQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層	定定	外. RC 鉄 設 る 合 る	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨	力が計算で 力が計算で 組みの変形 梁との違い	ごきる ごきる ジが計算でき いを理解でき
前期	1stQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱)	定定	外. RC 鉄 設る 合 る SR る	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを C部材の断面算	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC	力が計算で 力が計算で 組みの変形 梁との違い C,Sとの違い	できる できる ジが計算でき いを理解でき いを理解でき
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	応力②梁応力 RC部材の断面算系 鉄骨部材の断面算系変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱)	定定	外. RC 鉄 設 る 合 る SR る CF	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを CC部材の断面算 ではの断面算	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC	力が計算で 力が計算で 組みの変形 梁との違い C,Sとの違い	できる できる ジが計算でき いを理解でき いを理解でき
前期	1stQ 2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	応力②梁応力 RC部材の断面算算 鉄骨部材の断面算算変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形	定定	外 RC 鉄 設る 合 る SR る CF	カに対して骨組 カに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを CC部材の断面算 ではの断面算に 成構造の変形が	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC をして、RC,S 計算できる	カが計算で 力が計算で 組みの変形 梁との違い で,Sとの違い	できる できる ジが計算でき いを理解でき いを理解でき
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	応力②梁応力 RC部材の断面算算 鉄骨部材の断面質変形 たわみ、層 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造	定定	外 RC 鉄 設る 合 る SR る CF 合	カに対して骨組 カに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを CC部材の断面算 で でではの断面算に 成構造の変形が CS構造の仕組み	みに生じる応 みに生じる応 ができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC をして、RC,S 計算できる と特徴を理解	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる	できる できる が計算でき いを理解でき いを理解できる
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	応力②梁応力 RC部材の断面算が 鉄骨部材の断面算が変形 たわみ、層合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造	定定	外. RC 鉄 設 る 合 る SR る CF 合,	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを C部材の断面算 ではあるである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC をして、RC,S 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる	できる できる が計算でき いを理解でき なを理解できる を理解できる
前期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	応力②梁応力 RC部材の断面算算 鉄骨部材の断面質変形 たわみ、層 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造	定定	外. RC 鉄 設 る 合 る SR る CF 合,	カに対して骨組 カに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを CC部材の断面算 で でではの断面算に 成構造の変形が CS構造の仕組み	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC をして、RC,S 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる	できる できる が計算でき いを理解でき なを理解できる を理解できる
	2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ	間変形	外. RC 鉄 設 る 合 る SR る CF 合,	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを C部材の断面算 ではあるである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC をして、RC,S 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる	できる できる が計算でき いを理解でき なを理解できる を理解できる
モデルニ	2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	応力②梁応力 RC部材の断面算算数骨部材の断面算変形 たわみ、層合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到	電力	外 RC 鉄 設る 合る SR る CF 合。 RC RC	カに対して骨組 カに対して骨組 部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを C部材の断面算 ではあるである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	みに生じる応 みに生じる応 ができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC,S 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと 性能を比較し	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い こ,Sとの違い こ をとの違いを できる 二特徴を理って説明でき	できる できる かん おけい を理解できる を理解できる 軽できる
モデルニ	2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ	定 定定 耐変形 童目標 学習内容の到達目	外: RC 鉄 設る 合る SR る CF 合。 RC 名	カに対して骨組 カに対して骨組 かに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを に部材の断面算 ではの断面算定 成構造の変形が にS構造の仕組み にコアウォール権 種構造の特徴と	みに生じる応 みに生じる応 ができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC をして、RC 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと 性能を比較し	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる できる できる できる	できる できる が計算でき いを理解でき を を 理解できる を を 理解できる を を 要 を を 要 できる を を 要 できる を を す できる を きる と を す できる と を を す できる と を できる と を す できる と を できる と を で を できる と を できる と を で を できる と を できる と を で を できる と を で を で を で を で を で を で を で を で を で を
ヒデル ニ	2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	応力②梁応力 RC部材の断面算算数骨部材の断面算変形 たわみ、層合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到	定 記定 間で形 電車標 学習内容の到達目相 建築構造(W造、R	外: RC 鉄 設 る 合 る CF 合) RC RC 客 深 C造、S造、SRC造な	カに対して骨組 カに対して骨組 かに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを に部材の断面算 ではの断面算定 成構造の変形が にS構造の仕組み にコアウォール権 種構造の特徴と	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC をして、RC をして、RC をは変を理解 造の仕組みと 性能を比較し	カが計算で、カが計算では、カが計算では、カが計算では、組みの変形できる。これできるとの違いを理りて、説明できる。	できる ジャンド ジャンド ジャンド ジャンド ジャンド シャン シャンド シャンド シャンド シャンド シャンド シャンド シャンド シャンド シャンド シャンド シャンド シャン シャン シャン シャン シャン シャン シャン シャン
モデルニ	2ndQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	応力②梁応力 RC部材の断面算算数骨部材の断面算変形 たわみ、層合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到	定 記定 間間変形 重目標 学習内容の到達目相 建築構造(W造、Re 建築物に働く力に	外 RC 鉄 設 る 合 る SR る CF 合 RC RC を シ で た い で い で き い で き い で う い て い て い い に い い い い い い い い い い い い い	カに対して骨組 カに対して骨組 治がの断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを C部材の断面算 ではの断面算に 成構造の変形が CS構造の仕組み にコアウォール権 種構造の特徴と	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して骨 計算し、鉄骨 定をして、RC,S 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと 性能を比較し	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い。 できる できる できる できる できる	できる だきる が計算でき かを理解できる を理解できる を理解できる を理解できる を理解できる をする できる が記載
<u>モデルニ</u> 分類	2ndQ コアカリキ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 -ユラムの	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到) 学習内容	定 定 記定 計画変形 達目標 学習内容の到達目標 建築構造(W造、Re 建築物に働く力に 骨組構造物に作用	外 RC 鉄 設る 合る SR る CF 合/ RC RC RC RC RC RC RC RC RC RC	カに対して骨組 カに対して骨組 治がの断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを に部材の断面算 ではの断面算に 成構造の変形が に気構造の仕組み にコアウォール権 種構造の特徴と	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して、骨 計算し、鉄骨 定をして、RC、S 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと 性能を比較し 至る。 5 6 5	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い。 この違いを できる できる できる できる できる	できる できる が計算でき いを理解できる と理解できる を理解できる を理解できる がある。 が計算できる がある。 が計算できる がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある。 がある
モデルニ	2ndQ コアカリキ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 -ユラムの	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到) 学習内容	定 定 記定 計画変形 達目標 学習内容の到達目標 建築構造(W造、Re 建築物に働く力に 骨組構造物に作用	外 RC 鉄 設 る 合 る SR る CF 合 RC RC を シ で た い で い で き い で き い で う い て い て い い に い い い い い い い い い い い い い	カに対して骨組 カに対して骨組 治がの断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを に部材の断面算 ではの断面算に 成構造の変形が に気構造の仕組み にコアウォール権 種構造の特徴と	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して、 計算し、 鉄骨 定をして、RC、 き計算できる と特質できる と特徴を理解 造の仕組みと 性能を比較し	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる できる できる	できる だきる が計算でき かを理解できる を理解できる を理解できる を理解できる を理解できる をする できる できる
ヒデル <u>-</u>) 類	2ndQ コアカリキ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 -ユラムの	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到) 学習内容	定 定 記定 計画変形 達目標 学習内容の到達目標 建築構造(W造、Re 建築物に働く力に 骨組構造物に作用	外:	カに対して骨組 カに対して骨組 治がの断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを に部材の断面算 ではの断面算に 成構造の変形が に気構造の仕組み にコアウォール権 種構造の特徴と	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して、骨 計算し、鉄骨 定をして、RC、S 計算できる と特徴を理解 造の仕組みと 性能を比較し 至る。 5 6 5	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる できる できる	できる が計算できる ・ を理解できる ・ を理解できる ・ を理解できる ・ を理解できる ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
<u>こデルニ</u>) 類	2ndQ コアカリキ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 -ユラムの	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到) 学習内容	定 記定 間で形 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	外: RC 鉄: 設る 合: る。 SR る。 CF 合: RC 名: できる。 する荷重の種類についます。 する荷重の種類についます。 する荷重の種類についます。	カに対して骨組 カに対して骨組 治がの断面算定 骨部材の断面算 定した外力、断 成梁のたわみを に部材の断面算 ではの断面算に 成構造の変形が に気構造の仕組み にコアウォール権 種構造の特徴と	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して、 計算し、 鉄骨 定をして、RC、 き計算できる と特質できる と特徴を理解 造の仕組みと 性能を比較し	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる - 特徴を理り て説明でき	できる が計算できる ・を理解できる を理解できる を理解できる を理解できる がきる が計算できる がきる。
Eデル <u>-</u> 3 類	2ndQ コアカリキ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 -ユラムの	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到) 学習内容	定 定 間変形 間変形 学習内容の到達目相 建築構造(W造、Ri 建築物に働く力に 骨組構造物に作用 各種構造の設計荷頭 曲げ材の設計の計算 主筋の算定ができ	外: RC 鉄: 設る 合: る。 SR る。 CF 合: RC 名: できる。 する荷重の種類についます。 する荷重の種類についます。 する荷重の種類についます。	カに対して骨組 カに対して骨組 かに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算定 定した外力、断 成梁のたわみを にのが面算定 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	みに生じる応 みに生じる応 さができる 定ができる 面に対して、 計算し、 をして、RC,S 計算できる と特徴を担報みと 性能を比較し	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる て説明でき	できる が計算できる が計算できる を理解できる を理解できる 軽できる が記 前15 前2,前3 前15
三デル <u>□</u> →類 専門的能力	2ndQ コアカリキ カ 分野別の 門工学	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 -ユラムの	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到) 学習内容	定 定 間変形 間変形 学習内容の到達目相 建築構造(W造、Ri 建築物に働く力に 骨組構造物に作用 各種構造の設計荷頭 曲げ材の設計の計算 主筋の算定ができ	外: RC 鉄: 設る 合: る。 CF 合: RC 名: PC 会: かいて説明できる。 する荷重の種類につい 重・外力を計算できる。 算ができる。 る:	カに対して骨組 カに対して骨組 かに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算定 定した外力、断 成梁のたわみを にのが面算定 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	みに生じる応 みに生じる応 ができる 定ができる 面に対して、 計算し、 鉄 計算できる と特徴を担解 造の仕組みと 性能を比較し 至 5 5 5	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる て説明でき	できる が計算できる が計算できる を理解できる を理解できる を理解できる を理解できる が記載 前15 前2,前3 前15 前6
Eデル <u>-</u> 3 類	2ndQ コアカリキ カ 分野別の 門工学	4週 5週 6週 7週 8週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 ユーケの 建築系	応力②梁応力 RC部材の断面算 鉄骨部材の断面算 変形 たわみ、層 合成梁構造 SRC構造(柱) CFT構造(柱) 合成構造の変形 RCS構造 RCJアウォール構造 合成構造まとめ 学習内容と到) 学習内容	定 定 間変形 間変形 学習内容の到達目相 建築構造(W造、Ri 建築物に働く力に 骨組構造物に作用 各種構造の設計荷頭 曲げ材の設計の計算 主筋の算定ができ	外:	カに対して骨組 カに対して骨組 かに対して骨組 に部材の断面算定 骨部材の断面算定 定した外力、断 成梁のたわみを にのが面算定 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	みに生じる応 みに生じる応 ができる 定ができる 面に対して、 計算し、 鉄 計算できる と特徴を担解 造の仕組みと 性能を比較し 至 5 5 5	カが計算で カが計算で 組みの変形 梁との違い できる できる できる て説明でき	できる できる が計算できる かを理解できる を理解できる を理解できる が 15 前 15 前 2,前 3 前 15 前 6 前 6

基礎的能力	0	0	0	0	0	30	30
専門的能力	0	15	0	0	0	40	55
分野横断的能力	0	15	0	0	0	0	15

/\/\		 専門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	鉄筋コンクリ		
		<u> </u>	און דיינות	1 13/25 1/2 (2	2017 1/2/				
<u>17口坐。</u> 科目番号	WE IFIX	0003			科目区分	車門/嶺	±₽		
<u>村日田与</u> 授業形態		講義			単位の種別と単位	専門 / 選択 位数 学修単位: 2			
開設学科			専攻(建築学コース	7 \	対象学年	中型 中2	2		
開設期		前期	- 寺以(建栄チューク	\)	週時間数	2			
			建筑学会関東古部			<u> </u> =		 本建築学会「鉄筋=	
教科書/教	材 	ンクリー	・ト造建物の靱性保証	E型耐震設計指針」	、日本建築学会、	1999	2002 Z. L	一	
担当教員		本多 良正	女						
3. 部材(4. 鉄筋)	コンクリー コンクリー のカと変形(コンクリー	の関係を説明	心震被害と設計規準 <i>0</i> シモデル化の概要が設 することができる。)設計法が説明できる						
ルーブ!	ノック								
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安	未到達レベルの	D目安	
			RC造建物の地震変遷について明	被害と設計基準の 確に説明できる	RC造建物の地震 変遷について説明	被害と設計基準の 月できる	RC造建物の地変遷について明	震被害と設計基準の 月確に説明できない	
			RC造建物のモデ て明確に説明で	デル化の概要につい きる	RC造建物のモデ て説明できる	ル化の概要につい	N RC造建物のモ て明確に説明で	デル化の概要につい ごきない	
			部材の力と変形 確に説明でき、 問題を正確に解	の関係について明 これに関する演習 くことができる	部材の力と変形の 明でき,これに関解くことができる	関する演習問題を	・ 確に説明でき.	どの関係について明 これに関する演習 遅くことができない	
			RC造建物の設計 説明できる	法について明確に	RC造建物の設計: きる	法について説明で		計法について明確に	
学科の発	到達目標耳	頁目との関]係						
	育到達度目標								
教育方法	,								
<u> 扱 月 ノフ /</u> 概要	Д 		・ クリート造建物の終	女民没度を学ぶ					
瓜安			は講義形式とする。	※何強反で子の					
授業の進	め方・方法	部材の設	計等の課題を行って	こもらう。					
注意点		1. 建築 2. 受講 3. 最終	耐震設計論を受講し の際は鉄筋コンクリ 授業のときに、理解	っていること。 リート構造の内容を 解度を確認するため	確認しておくこと。 の課題を出す。	•			
授業計画	画								
		週	授業内容			週ごとの到達目	票		
		1週	RC造の歴史・設計	基準の変遷		RC構造の歴史と	設計基準の変遷を	理解する	
		2週	RC造建物の地震被	害		RC造建物の地震	被害を理解する	を理解する	
		3週	RC構造の概要と材	料		RC構造の概要と	材料を理解する		
	1.00	4週	部材のモデル化と	考え方	構造解析における		る部材のモデル化の	の考え方を理解する	
	1stQ	5週	部材の曲げ強度-1			柱、梁の曲げ強度を理解する			
		6週	部材の曲げ強度-2			柱、梁の曲げ強度の算定ができる			
		7週	部材のせん断強度-	1		柱、梁のせん断	<u></u> 強度を理解する		
 #□	L	8週	部材のせん断強度-	2		柱、梁のせん断強度の算定ができる			
前期		9週	耐力壁部材の強度-	1		耐震壁の強度を理	里解する		
		10週	耐力壁部材の強度-	2		耐震壁の強度の第	 算定ができる		
		11週	柱はり接合部の強度			柱梁接合部の強力	要を理解する		
		12週	柱はり接合部の強度			柱梁接合部の強力			
	2ndQ	13週	鉄筋の付着、定着	·- =		鉄筋の付着、定			
		14週	RC造建物の設計法	-1		RC造建物の設計			
		15週	RC造建物の設計法					 :する	
		16週				RC造建物の耐震診断の概略を理解する			
モデル	ー コアカリ:	•	-)学習内容と到達	 日標					
<u>こファレ-</u> 分類		分野	学習内容	 学習内容の到達目	票		刊達	レベル 授業週	
<u>2228</u> 評価割さ	 ≙	17323	1, 5, 10	1 2 H. 1H - 2 - 1XEH			121/5	12452	
ロー・一川古りに	コ	💴 🚟	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	ナ その他	合計	
		77.T	0		0	80	1 ⁻ こりが良 20	100	
₩△瓢冲:	ᄓᅵᅟᄆᄓ								
総合評価	1 1		In	10	IN	171		10	
基礎的能			0	0	0	0	0	100	
総合評価 基礎的能 専門的能 分野横断	カ 0		0 0	0 0	0 0	80	20	0 100 0	

小山	 I工業高等	専門学	学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授美	業科目	建築高機		 学
科目基礎											
科目番号		000	4			科目区分		専門 / 選抜	₹		
授業形態		講義				単位の種別と単					
開設学科		複合	工学専攻	(建築学コー	-ス)	対象学年		専2			
開設期		前期	1	(/2/// 2		週時間数		2			
<u>////////////////////////////////////</u>	· *** ***オ	13374				7.2. 312327		_			
担当教員	(1/)	JILE	勝弥								
<u>====================================</u>		/11-11	ינינ נענו								
1. 建築月	用高機能材料	料につい と題材と	いて、その ^は こし、建築	特徴及び使用 材料としての	月上の留意点を理解し)適否を説明できるこ	、自らの判断によ	り説明て	ぎきること。)		
ルーブリ	Jック										
			理	想的な到達し	ノベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目	 安	未到達レ	ベルの目安	
			建特	葉用高機能は ではない。 ではいる みぎに	材料について、その 方法について、知見 明できること。	建築用高機能材料				機能材料について概要を訪	
			與材	味のある素材 料としてのi	ーー 材を題材とし、建築 適否を根拠を持って	興味のある素材 材料としての適				る素材の特徴	かを説明でき
	1)± ¬ '=-	<u></u>		朗できるこ	<u></u>	と。			15000		
•	引達目標項		ツ関係_								
学習・教育 JABEE (B	育到達度目標 い	# 4									
教育方法	女	7+44	+:#:++:	おける印度で		+ +# <i>55</i> -+ > 7 1 254-1		- このほかり	-1W + = 1W	ムド7キケケナ エルバート	<i>.</i> /+₩~'/+
概要		建築	を準法が クリート	yのる柱度の を例として詰	性能を有する建築物 議する。各種再生資	で愽架9る建築材 源を有効利用した	科よりも 建築材料	高品質なれ の開発に「	タ科を局機 句けた基礎	形建梁材料と 知識を講義す	1位直つけ、 る。建築材
		料と	して利用	可能な素材を	選定してその特性に	ついて把握し、そ	の可能性	について	考察する。	2137% /	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
受業の進め	め方・方法	授業	は、担当	教員による講	義と受講生が調査し	た成果のスライド	による発	表により	うう。		
注意点		建築	材料の選	定には、材料	lの特性以外にも構工:	法、法的規制、環	境対策等	の要求がる	あることを	理解すること	. 0
受業計画	<u></u>	•									
<u> </u>		週	授業	 内容			调ごとの	D到達目標			
		1週		建築高機能材料とは-高機能材料、新素材(講義)				建築材料としての高機能材料・新素材の概念について			
		2週		建築用新材料-構造用新材料(講義)				理解する 建築構造材料について理解する			
		3週			<u> </u>	講義)			トについて		
		4週		・建築用新材料-高機能コンクリート(講義) ・建築用新材料-高機能コンクリート(講義)						·	
	1stQ	5週			- 高機能コンクリート しての新しい利用(ロ		高機能コンクリートについて理解する 建築材料としての土について理解する				
		6週			, ,,, _ , ,,,,, ,, ,,		建築材料としてのプラスチックについて理解する				
		7週			4-木材(口頭発表)		建築材料としての高機能性木材について理解する				
		8週		建築用高機能材料-ガラス(口頭発表)				建築材料としてのガラスについて理解する			
±++0		9週			物質 (講義) 再生資源 (講義) リサイクル材料、環境基準 (講義)		建築材料と有害物質との関係について理解する				
前期		10週	環境	適合型材料 -			建築材料と再生資源との関係について理解する				
		11週	環境	適合型材料 -			リサイクルされた材料と環境基準との関係について理解する				
							解する 興味ある素材について建築材料の観点から調査・分析				
		12週	-調	ある糸材の発査・分析〔そ	E架材料として利用の その1〕(口頭発表)	01〕(口頭発表) する する する する する する する かけいて 利用の可能性について 風味あ		する			
	2ndQ	13週	一調	査、分析〔そ	その2〕(口頭発表)			興味ある素材について建築材料の観点から調査・分 する			
		14週		ある素材の類 の1〕(口頭	建築材料として利用の 賢発表)	可能性について	興味ある素材の建築材料としての使用法を提案する				
		15週		ある素材の類 の2〕(口頭	建築材料として利用の 頁発表)	可能性について	興味ある素材の建築材料としての使用法を提案する				
		16週									
モデルニ	コアカリキ	ニュラ	 ムの学習	内容と到						<u> </u>	
<u> </u>			 野	学習内容	学習内容の到達目	票				到達レベル	授業週
		1/3	-	1	建築材料の特徴・		10			4	
								ことができ	<u>*</u> る。	4	1
						建築材料の規格・要求性能について説明することができ 木材の種類について説明できる。		_ 🗸 🗸 0	4		
										4	1
						種類と用途について説明できる。			4	1	
						構造と組織について理解している。 木材の成長と伐採・製材について説明できる。				4	+
専門的能力	カー分野別の 門工学)専 3章	築系分野	材料			明じさる	0		+ -	1
ショ コロン日じく	~ 門工学	Į×±	ホハルギ	דיוניון	物理的性質につい					4	1
					傷(節など)について		133.6			4	1
					耐久性(例えば腐れ		ビ)につい	て説明でき	きる。	4	1
					耐火性について説明	明できる。				4	
					近年の木材工業製品	品(集成材、積層材	オなど)の	種類につい	ヽて説明で	4	
					きる。					ļ .	
		1		1	セメント・コンク!	リートの歴中につ	いて押解	している。		4	1

			١.	/> L ~#!\#-1-\	- / 成安場で10円・	A+\\/-~! · -=\	エナフ	4	
			_	マメントの製造方法	•	•	<u> </u>	4	
				マメントの化学成分				3	
			_	マメントの物理的性				4	
				マメントの種類・特				4	
				コンクリート用軽量				4	
			<u>注</u>	昆和材(剤)料の種類 リカフュームなど)	(例えばAE剤と減 をあげることがで	冰剤、フライアッ きる。	シュやシ 	4	
			<u>_</u>	コンクリートの調合	合のうち、水セメン	ント比の計算ができ	る。	4	
			- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	スランプ、空気量に 響について説明でき	こついて、強度また sる。	こは、耐久性の観点	でその影	4	
				 コンクリートの強度 兑明できる。	度(圧縮、引張、曲	げ、せん断)の関係	について	4	
			Бi	で力とひずみの関係 で力とひずみの関係	系について説明でき	 きる。		4	
			引	単性係数の意味につ	Dいて説明できる。			3	
			2	フリープ現象と構造	造物に対する影響に	こついて理解してい	る。	3	
				を燥収縮について 理				3	
			4	中性化現象と鉄筋σ	の腐食の関係につい	· ハて説明できる。		4	
			万	東害現象と抑制方法	について説明でき	 きる。		4	
				宣書現象と抑制方法				4	
				アルカリ骨材反応現				4	
				耐火性(高強度の二 解している。			ついて理	4	
			2	各種(暑中・寒中なら 名称をあげることか	ど)・特殊(水密、 できる。	高強度など)コンク	リートの	4	
				ニンクリート製品(/ ごきる。	ALC、プレキャス	トなど)の特徴につ	いて説明	4	
			集	製鉄の歴史について	理解している。			4	
			釗		ンいて説明できる。			4	
			釗	岡材の組織・組成に	ついて理解してい	いる。		4	
			釗	 	 説明できる。			4	
			釗	岡材の腐食と抑制方	法について説明で	 できる。		4	
			3	====================================			いて説明	4	
			廷	===○ 建築用鋼製品(丸鋼 きる。	・形鋼・板など)の)特徴・性質につい	て説明で	4	
				#鉄金属(アルミ、) とができる。	銅、ステンレスな	ど)の分類、特徴を	あげるこ	4	
			Z	5材の種類・性質に	ついて説明できる	3.		4	
			Z		 いて説明できる。			4	
				星根材(例えば和瓦、 あげることができる	洋瓦、金属、ア		の特徴を	3	
				タイルの種類、特徴		 ごきる。		4	
				ガラスの製法、種類				4	
				断熱材料の熱的性質				4	
			-	新来の相対に応じた 全料の種類に応じた			て説明で		
			5	される。 きる。 2次製品壁材(たと				4	
)	の種類と性質につ	ついて理解している	3.		4	
			1	下地材の種類(例え) ドなど)をあげるこ	とができる。			4	
			丑	生官材料(モルタル 里解している。				4	
			F	末の仕上げ材料(カ・ シート等)をあげる。	ーペット、フロー ことができる。	リング、レベリン:	グ、長尺 	4	
評価割合									
	試験	発表	Ę	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	50		0	0	0	50	100	
基礎的能力	0	30		0	0	0	30	60	
専門的能力	0	20		0	0	0	20	40	
分野横断的能:	カ 0	0		0	0	0	0	0	

小山	工業高等	専門]学校		開講年度	平成29年度 (2	.017年度)	授	業科目 第	 建築 C A	D·CG	
科目基礎			10		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	11.5000 1100 (2			IX			
科目番号	-113110	00	005				科目区分		専門 / 選択			
授業形態		-	講義				単位の種別と単位					
開設学科		-		攻	(建築学コー)	ス)	対象学年		専2			
開設期		-	i期				週時間数		2			
教科書/教材	·····································	な	: し				•					
担当教員		大	島 隆一									
到達目標		•										
2.3次元	CADCGで	建築物	勿等が作図	図でる		明できる。 と具体的に示すことだ	ができる。					
ルーブリ	ック											
				理	想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目	安	未到達レ	ベルの目安	
評価項目1				3 た。	次元CADCG(具体的にかつ	こついて、その特徴 正確に説明できる	3次元CADCGに を具体的に説明 ⁻		、その特徴	3 次元C/ を具体的	ADCGについ ⁻ に説明できな	て、その特徴 :い。
評価項目2					次元CADCGで 図できる。	で建築物等が明確に	3次元CADCGできる。	建築物	等が作図で	きない。	ADCGで建築物	
評価項目3				築	D利用技術、 の関わりを具 すことができ	IT、ICT、BIMと建 体的にかつ正確に る。	CAD利用技術、 築の関わりを具 できる。	IT、IC 体的に記	「、BIMと建 Fすことが	CAD利用 築の関わ できない	I技術、IT、I()りを具体的に)。	IT、BIMと建 示すことが
学科の到	」達目標項	頁目と	との関係	Ŕ								
学習・教育		票 ⑤										
JABEE (C) 教会士は												
教育方法	守	z≠	おうさい		について マ	の甘木畑今も羽伊や	の何类レーテーコ	ロかつつ	の可能性を含	心生 オフナ	- th Voctor-1	Varkata
概要		<u> </u>	・形式にて	学ぶ	10	の基本概念を習得後に学ぶ。また、情報リ		心理、C	の可能性を AD・CG利用	ij	」め、vectory 用と活用につ	vorks79 いて小テス
授業の進め	方・方法	授	業内容に	応じ	た課題を出し	ポート発表を組み合ねし、その解答をレポー	- 卜にて提出を求		1 1 451	**** ,	IB +874	.1.84
注意点		こつコ	.の分野に のソフト ンとソフ	おに物	するツールは、 特化した講義で には制約がある	Pov-Ray や Vecto 内容というより、その るが、希望によりです	rWorks、ヒラネ の汎用性や他への きるだけ多様なソ	シージ、 対応やi フトにi	shade など 可能性を考え 対応した授業	:様々な利 た授業と としたい	用・表現手法 したい。準備 <u>。</u>	がある。一 できるパソ
授業計画	Ī											
		週		(業)				週ごとの到達目標				
		1週		自分の PC 環境、CAD 環境を整える・ の基礎の実力小テスト			知る/情報処理	理解する				
		2週	1	情報処理の基礎・レポート発表/Vector 1・2 次元図面の練習							面を理解する	
		3週	V	VectorWorks の基礎 2・3 次元図面の)練習					
		4週	/	Vect	図面発表/名 torWorks3 % らよび素材表		各種3DCAD、CG 基本事項を理解する/VectorWorks: 次元 CAD による建築物やディテール設計および素材 表現について理解する			ectorWorks3 および素材		
	1stQ	5週	V	ecto PO	ectorWorks 3 次元CAD建築物演習課題の発表 POV-RAY の言語(C 言語)の理解、扱い方				RAY の言語	(C 言語)	、扱い方を理	里解する
		6週	Р	OV-RAY 「サンプルとインクルード」 演習					RAY「サンフ する	プルとイン	·クルード」演	習 にて基礎
		7週	σ.	形	上質感」演習	の課題発表/POV-R /スタディ:物体、空	≥、地面の作成	POV-RAY「建築物等の形と質感」演習にて表現方法 を理解する				
前期		8週	等 習	POV-RAY「形と質感」の課題発表/POV-RAY「建築物等のマッピング、不規則図形・画像の立体化」演習/スタディ:画像の利用、樹木				POV-RAY「建築物等のマッピング、不規則図形・画像の立体化」演習にてマッピングを理解する				
		9週	5	医染物	-RAY「マッし 勿や自然界を 也面・山・崖	ピング」の課題発表 表現」演習/スタデ ・水・樹木	/POV-RAY「 ィ:光・空・大	OV-RAY「 : 光・空・大 CADCGで創造しにくいものを理解する			にて	
		10近				物や自然界を表現」次 地面・山・崖・水・≀		POV-RAY「建築物や自然界を表現」演習にて概略を 創造する				
	2 10	11边				界を表現」課題発表		POV-RAY「自然界を表現」を完成させ、どう表現できたかを理解・共有する				
	2ndQ	12边			こついて			画像について 、その概要を理解する				
		13 返				発表/IT,ICT,BIMに		IT,ICT,BIMについて、その概要を理解する CAD 利用技術者試験,CADCG 知識レベル測定小テス				
		14边	^민 기	川に	を小テストと			にて、	これまでの匠	が用を理解	なする	
		15边	<u>" </u>	AD 発		【験,CADCG 知識レ^	ベル測定のレポー	ペー CAD 利用技術者試験,CADCG 知識レベル測定のレポート発表にて、これまでの応用を理解・共有する				
		16〕										
モデルコ	アカリコ	トユ	ラムの学	智	内容と到達	自標						
分類			分野		学習内容	学習内容の到達目標					到達レベル	授業週
専門的能力	り 分野別の 門工学	の専	建築系分	野	情報処理	コンピュータを構成明できる。				ついて説	4	
						いろいろなコンピ	ュータの利用につ	いて説明	月できる。		5	

		設計・製図	設計・製図 ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成できる。			5					
評価割合											
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計				
総合評価割合	30	0	0	0	0	70	100				
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0				
専門的能力	30	0	0	0	0	70	100				
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0				